

討論メモ

「初夏 大放談会」

令和 6年6月18日

1. 6月は、特に話題提供者を定めずに、出席者が随時話題を提供し、議論を展開する形で進めました。

ウクライナ・ロシアの戦闘、ハマス・イスラエルの戦闘の現状分析や今後の見通し、また、東アジアへの波及の可能性などに関して、意見交換が行われました。

一方で、G7の迷走、影響力の著しい低下、一方でBRICS, グローバルサウスの台頭が顕著になり、世界史の変動が起こる可能性も出て来ていることなどが論じられました。

2. 出席者7名による自由な討論に入り、下記のような意見が出されました。

- ・第二次大戦のドイツの敗北を実質的に確定したノルマンジー上陸作戦の80周年記念式典が行われた。

- ・ドイツ打倒の先陣争いを西欧とソ連が行っていたとの評価もある。

- ・そもそもドイツには既に反撃能力がなく、上陸作戦は不必要だったとの見方もある。

- ・エコノミスト誌はこの式典を通じてマクロン大統領のロシアに対する強硬姿勢を評価しているようだ。

- ・マクロンはウクライナへの軍事支援を続けるというが、停戦は考えないのか。

- ・連合国の有力な一員だった筈のソ連は今年の式典には参加していない。招待されたのだろうか？

- ・連合国は自由を守るために戦ったというが、ソ連は共産党独裁政権だった。自由の正体とは何か、改めて考えさせられる。

- ・式典を通じて、米国の指導力の低下を覆い隠せなくなってきている。

- ・ドイツでは、ナチスやホロコーストについては話題にすることさえ憚られているようだ。

- ・かつてはソ連が式典に参加していた時代もある。過去の式典で各国の首脳の発言を振り返れば、平和へのヒントがあるかもしれない。

- ・ロシアの欧米の於ける資産の凍結までは、あり得ても、流用は酷い。G7による泥棒行為だ。

- ・米ドルの信認が大幅に低下することになる。
- ・米国は、ロシアとウクライナのロシア人同士を戦わせている。米はロシア人を殺している。
- ・プーチンの参謀が減って、情報が行き届かなくなっているという説もある。

- ・日本は台湾問題があるからウクライナ支援に協力せざるを得ない。
- ・しかし、岸田首相が西欧各国を歴訪してウクライナ支援を呼びかけるのは、愚策ではないか。

- ・岸田首相は、米国に国賓待遇で招かれたが、何を密約してきたのか、心配だ。
- ・日米軍の指揮権の統一が発表されたが、米軍の指揮のもと自衛隊員が戦地に送られる準備が進んでいる。

- ・日米同盟は片務的、有事に米軍を当てにしなければならない。
- ・米国大統領選挙後、銀行破綻など大きな問題が起こるのではないか。

- ・第二次大戦で、ドイツがソ連に攻め込んだ時に、日本も攻め込めば勝機はあったともいわれる。

- ・当時は、日本のエリートにソ連親派が多かったこともあり、踏み切れなかったのか。
- ・当時は米国にも共産勢力が入り込んでいた。
- ・共産主義は、今はグローバリズムに姿を変えて、文化・伝統を破壊している。

- ・イスラエル・ハマスはネタニヤフが辞めない終わらない。
- ・米国内のユダヤの勢力は強く、イスラエル支持は揺るがない。
- ・しかし、ユダヤも内部で分裂している気配もある。
- ・シオニストがイスラエルを建国した。しかし、イスラエルに移住したのは東欧、ロシアなどの貧しいユダヤの人々だったと言われる。
- ・米国内でも学生の反イスラエルデモも起きている。

- ・ユダヤ人は優秀でよく頑張るようだ。さらに教育が徹底しており、その上シンジケートがあって仲間同士の助け合いがすごい。

- ・国に頼れないので、何でも自分の力で解決する習慣を身に付けている。
- 。中国における客家とよく似ている。リ・カンユー、李登輝、鄧小平みんな客家だ。

- ・戦争はビジネス。儲かります。金融資本は戦争で未曾有の利益を上げています。
- ・大国間のヘゲモニー争いに中国、インドも加わり複雑になる。

- ・中国の不況は本当か？
- ・外資がサプライチェーンを移している。

- ・ 昨年の中国向け外資は 8 割減ったそうだ。
- ・ 外資が逃げているのか、それとも中国が拒んでいるのか。
- ・ 不況をごまかすために外部へ侵攻するのが怖い。
- ・ 台湾は戦わずして勝つという方策をとるのではないか。
- ・ 北鮮と韓国のごみ戦争は何だ？ 子供の喧嘩のようだ。
- ・ しかし、朝鮮半島は最も危険だ。
- ・ 人間の欲望があれば争いはなくなりますが、それだけに教育が大事だ。
- ・ ウクライナ、イスラエルが注目されるが、アフリカなど世界各地で沢山の戦争が戦われている。
- ・ 宗教家はどう考えているのだろう。

・ 若い頃「ロスチャイルドの歴史」を読んだが、情報は大事だ。

- ・ 林千勝の「陸軍の勝算」は教えられる良い本だ。日本は生き残れる道があったのに、海軍の独走で台無しになった。本当に残念だ。
- ・ 日米の潜水艦の能力は互角だったが、日本軍は軍艦を狙い、米国は輸送船を狙った。日本の輸送網は分断された。
- ・ 山本五十六はハワイ、ミッドウエー、ガダルカナルと不必要な戦いを続けトラック島をやられて、陸軍を孤立させた。米国留学で何を学んだのか。

以上